

宮古発

田老の防潮堤 工事始まる

資材の調達の遅れなどで着工が先延ばしになっていた、宮古市田老地区の防潮堤のかさ上げ工事が始まりました。工事が始まったのは田老地区にあるX字の形をした防潮堤の陸側の部分で、転落防止のブロックを撤去した後、地盤沈下した分を補うため平均で70センチの鉄筋入りのコンクリートの壁を、965メートルにわたって設置します。防潮堤の高さは震災前と同じ海拔10メートルを維持。工事は資材の調達が難航したほか、現地調査に時間がかかったため、1か月余り開始が遅れていました。完成は9月下旬の見込みです。(5/14 ニュースエコー)。



北上発

岩手県仮設住宅カラオケ歌合戦

県内の仮設住宅に暮らす人たちが、自慢の「のど」を競う、「仮設住宅カラオケ歌合戦」が北上市で開催されました。これは、仮設住宅で暮らす人達に、カラオケを通して、「歌」を楽しんでもらおうと、企画されたものです。11日、県内10箇所で開催された予選会を勝ち抜いた20人による決勝大会が行われました。出場者は、日頃の練習の成果を、存分に披露しました。又、観客席では、応援バスで駆けつけた約500人の応援団が、盛んに声援を送っていました。(5/11)



宮古発

中学生がカキ殻むき体験

自分たちの住む街の大切な産業、カキの養殖について理解を深めようと、宮古市の中学生たちがカキの殻むきに挑戦しました。殻むき体験をしたのは宮古市立花輪中学校の2年生29人です。震災後、養殖カキの漁獲も回復してきたことから最近、復活した殻むき体験。まず地元の漁家が実演しながら殻のむき方を指導しました。そしていよいよ生徒たちの番になりましたが、ほとんどが初めての体験。簡単には開いてくれず悪戦苦闘していました。殻むき体験の後、カキはお吸い物に調理され生徒たちは海の恵みをおいしそうにほおばっていました。(5/15)5/2 ニュースエコー)



宮古発・さんりく元気ラジオ

重茂小学校仮設グラウンドの完成

今週はみやこ災害FMの木村彩子さんが、宮古市立重茂小学校仮設グラウンドの完成について伝えてくれました。ここでは、被災した他の2つの小学校も合わせ100名余りの児童が学んでいます。しかし校庭には仮設住宅が建ち、体育の授業は体育館で行われていました。新しい仮設グラウンドは学校の下にあり、面積は1,100㎡です。子どもたちは「これで思いっきり走り回ることができます。」と喜び、校長先生は「多くの方たちのお蔭です。大切に使いましょう。」と話していました。



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122